

あわら市



1 吉崎御坊跡 あわら市吉崎

蓮如上人は文明三年(1471)に吉崎で御坊を建立し、浄土真宗布教の拠点とした。教へのわかりやすさから門徒が多数集まり、御坊建立からわずかな期間で寺内町を形成したが、蓮如上人は開山後4年で吉崎を去り、御坊も永正三年(1506)に朝倉氏によって破却された。

坂井市



2 称念寺 坂井市丸岡町長崎

齊藤義龍の軍に明智城を滅ぼされた際、明智光秀は母・お牧の方の縁を頼って、妻・照子とともに称念寺の門前に身を寄せたとされている。

福井市



3 西光寺 福井市左内町

一乗谷領地の取り合い合戦で勝った朝倉氏側が、負かした相手を供養するために建立したと伝えられる。北庄城で自害した柴田勝家と妻・お市の方が眠る墓所がある。

※御朱印記入、勝家公資料館見学は要予約 0776-36-1528

福井市



4 明智神社 福井市東大味

明智光秀が朝倉家臣時代に居住したという東大味。後の織田信長の越前攻略の際、光秀はこの地を戦禍から守ったとされ、地元では「あけつつあま」と慕われ、今も明智神社に祀られている。光秀の三女・玉(細川ガラシャ)生誕の地と言われている。

勝山市



5 白山平泉寺 勝山市平泉寺町

泰澄によって開かれた白山平泉寺は、戦国時代には、48社、36堂、6,000の坊院が建ち並ぶ、当時の日本では最大規模の宗教都市であった。しかし、天正2年(1574年)当時、大阪の本願寺方の一向一揆に攻められ、全山が焼失した。

※明治時代の神仏分離令により現在は「平泉寺白山神社」

大野市



6 朝倉義景墓所 大野市泉町

織田信長の一乗谷攻めに敗れた朝倉義景は、支族の朝倉景鏡を頼り、大野に逃れた。しかし、景鏡の裏切りにあい、六坊賢松寺にて自害した。

越前市



8 越前和紙の里 越前市五箇地区

岡太神社・大瀧神社が鎮座する五箇地区は、1500年の歴史を持つ和紙の名産地。街には、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康ら歴代の権力者からの紙の流通を安堵する印鑑が残る。「明智軍記」には、光秀が信長に越前和紙を献上したという記載がある。

敦賀市



9 宮蕃尾城跡 敦賀市刀根

織田勢力を二分した賤ヶ岳の戦いで、柴田勝家が本陣を置いた山城跡。切堀や土塁が当時のまま良好な状態で残されており、「続日本100名城」に選定されている。

越前・若狭 戦国マップ



越前町



7 劔神社 越前町織田

織田信長が氏神として深く尊崇し、武運を祈ると共に多くの神領を寄進し社殿を造立するなど、保護と治安に尽くしたとされる。織田氏の祖先が代々神官を務め、尾張に移った際、故郷の名から「織田」を名乗ったとされる。

若狭町



10 熊川宿 若狭町熊川

若狭と京都を結ぶ鯖街道の宿場町であり、織田・徳川軍の越前攻めのルート。細川ガラシャの義母、細川マリア(沼田麿香)の出身地。

街 城 印

GOJOYOUNIN

越前・若狭

御城印

越前・若狭

GOJOYUIN



1枚

300円



近年、若い人の間でも人気のある神社やお寺の御朱印集め。実はお城にも「御城印」というものがあるんです。福井県の5つの名城にも趣向を凝らした「御城印」があります。旅の思い出として、登城の記念にぜひ集めてみてはいかがでしょうか？

福井県 × 明智光秀

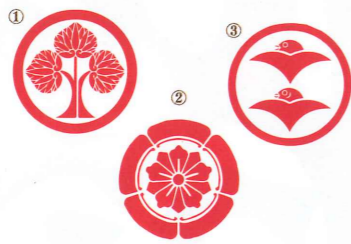
2020年NHK大河ドラマの主役「明智光秀」。青年期には朝倉義景に仕え、10年近くの期間を福井で過ごしたともいわれ、明智神社や称念寺など光秀ゆかりの地が今もなお残っています。また、朝倉氏が領国支配の拠点とした一乗谷、織田家のルーツとされる劔神社、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康ら歴代の権力者からの紙の流通を安堵する印鑑が残る越前和紙の里など、戦国大名ゆかりの地も数多く存在します。5つの名城巡りに合わせて、福井の戦国スポットにも足を伸ばしてみたいかがでしょうか。



丸岡城

現存する日本最古級の天守

外観は上層望楼を形成して通し柱がなく、一層は二階三階を支える支台をなし、屋根は二重で内部は三階となっており、城郭建築の初期のものです。屋根が全部石瓦で葺かれていて全国的にも稀な天守です。



①本多家家紋

京都・賀茂神社の神紋が「二葉葵」の紋神官である本多氏はこの二葉葵を変えて家紋にした。

②有馬家家紋

五瓜に劔唐花の「有馬瓜」「劔唐花」は「肥前大村家」と婚姻関係のあった「肥前有馬家」の両家が使用。

③柴田家家紋

由来は編隊を組んで飛ぶ姿が勇壮であることからの説があります。

住所 ▶ 坂井市丸岡町霞町 1-59
受付場所 ▶ 券売所窓口
販売時間 ▶ 8:30 ~ 16:30



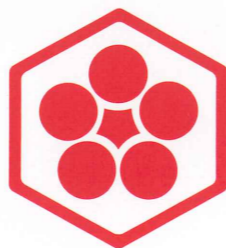
0776-66-0303 丸岡城管理事務所



越前大野城

奇跡に出会える天空の城

織田信長の部将、金森長近により天正8年(1580)頃に築城された平山城で、今年築城から440年の記念の年になります。亀山と呼ばれる標高249mの小高い山の上に築城されており、晩秋から春にかけて十数回、城下町が雲海に包まれる神秘的な「天空の城」が出現します。



金森家家紋

亀甲裏梅鉢

大野城を亀山の上に築城したこと、自身の陣羽織に亀の刺繍を施していたことなどから、金森長近は長寿の象徴として亀を好んだと言われており、家紋に亀甲を取り入れたのも亀を好んだことによるものと推測されます。裏梅鉢は梅の花を裏から見た形を図にしたもので、花の中央には「がく」が配されています。

金森長近は大野城、高山城、小倉山城の三城を築城したことから城づくりの名人と呼ばれています。

住所 ▶ 大野市城町 3-109
受付場所 ▶ 券売所窓口
※冬季休館中(12~3月)は武家屋敷旧内山家にて販売
販売時間 ▶ 9:00 ~ 17:00 4~9月
▶ 9:00 ~ 16:00 10月~3月



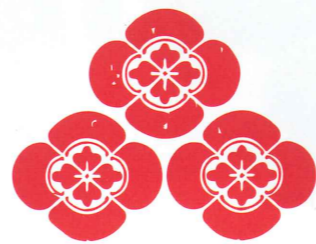
0779-65-5521 (一社)大野市観光協会



越前朝倉一乘谷城

栄華を極めた戦国城下町

戦国大名朝倉氏が5代103年、領国支配の拠点とし栄華を極めた城下町。1573年織田信長に滅ぼされるまでは、約1万人もの人々が暮らし、茶の湯や舞踊など、政治・文化の中心として繁栄していました。



朝倉家家紋

三ツ盛り木瓜

朝倉氏は光徳天皇の末裔と言われており、日下部姓を名乗っていたころは「1ツ木瓜」を使用していましたが、源頼朝から手柄を立てた褒美に木瓜を2ツ添えるように命じられ「三ツ盛り木瓜」の家紋とするようになった。また、木瓜紋の由来については鳥の巣を圖案化した子孫繁栄を願ったから、神社の御簾帽額に多く使用されており神の加護が得られるからなど諸説あります。

住所 ▶ 福井市城戸ノ内町 28-37
受付場所 ▶ 復原町並南入場口受付
販売時間 ▶ 9:00 ~ 17:00



0776-41-2330 (一社)朝倉氏遺跡保存協会



金ヶ崎城

歴史の分岐点となった天然の要害

戦国時代、「金ヶ崎の退き口」の舞台となった金ヶ崎城。海と山に囲まれ、地の利を生かした天然の要害といえる山城でした。戦国武将が月見をしたと伝えられる山頂の月見御殿からは、敦賀湾が一望できます。



金ヶ崎の退き口

難関突破

金ヶ崎の戦いでお市の方が兄である織田信長に浅井氏の裏切りを知らせるため、両方を紐で結んだ袋に小豆を入れ、陣中見舞いとして届けさせたといわれています。この様子が袋の鼠(朝倉、浅井の挟み撃ちに遭うこと)をあらわしていると悟った織田信長は、殿(しんがり)を命じた木下藤吉郎(後の豊臣秀吉)、明智光秀らの活躍もあり、無事帰京したと伝えられます。

住所 ▶ 敦賀市金ヶ崎町 1-4
受付場所 ▶ 金崎宮社務所
販売時間 ▶ 9:00 ~ 17:00



0770-22-0938 金崎宮社務所



若狭国三万郡佐柿国吉城

朝倉勢を退けた難攻不落の城

若狭国守護武田氏の重臣、栗屋越中守勝久が築いた若狭国境を守る「境目の城」です。1563年からほぼ毎年続いた越前朝倉勢の侵攻を悉く退けました。1570年、織田信長が入城して朝倉氏討伐の本陣としました。



栗屋家家紋

花菱に扇

栗屋氏は、清和源氏新羅三郎義光を祖とする武田信義の弟、安田義定の子孫が常陸国栗屋荘に土着したことが始まりといわれます。武田一族を示す花菱紋と、末広がりで縁起が良いとされる扇紋を組み合わせた家紋です。江戸時代に豊後国臼杵藩稲葉家に仕えた栗屋勝久の子孫は、扇紋を外して花菱紋を家紋としました。

住所 ▶ 三方郡美浜町佐柿 25-2
受付場所 ▶ 若狭国吉城歴史資料館受付
販売時間 ▶ 9:00 ~ 17:00 4~11月
▶ 10:00 ~ 16:30 12月~3月



0770-32-0050 若狭国吉城歴史資料館